

## 会 議 事 録

1 会議名	平成29年度第2回長岡市高齢者保健福祉推進会議
2 開催日時	平成29年9月27日(水曜日) 午前9時30分から午前11時まで
3 開催場所	まちなかキャンパス長岡 301会議室
4 出席者名	(委員) 本田委員長 長谷川和明委員 長谷川美恵子委員 藤田委員 堀委員 村松委員 山崎委員 吉井委員 米山委員 加邊委員 金子委員 柄澤委員 小西委員 小林啓一委員 小林守委員 佐合委員 竹内委員 (事務局) 福祉保健部長 福祉総務課長 介護保険課長 長寿はつらつ課長 健康課長 長岡市社会福祉協議会事務局長 ほか関係職員
5 欠席者名	長谷川剛副委員長 鯉江委員 林委員
6 議題	(1) 第7期計画の総論(案)について (2) 第7期計画の策定作業の進捗について (3) 地域福祉計画について (4) その他
7 審議の内容	
発言者	議 事 内 容
福祉総務課 課長補佐	みなさま、本日はお忙しいところお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。ただいまから、今年度、第2回目の高齢者保健福祉推進会議を開会いたします。 ここで資料の確認をいたします。事前にお配りいたしました資料が、本日の次第、それから資料No.1から3までございます。 今日お配りいたしましたものが、委員の皆様の名簿、それから配席図でございます。不足のものはございませんでしょうか。よろしいでしょうか。 それでは、ここからは委員長に進行をお任せしたいと思いますのでよろしく願いいたします。
委員長	(あいさつ) それでは議題に入ります。第7期の計画の総論(案)について事務局から説明をお願いします。

福祉総務課長	(資料No. 1 の説明)
委員長	<p>ありがとうございます。これから話し合いをしてミーティング的に進めたいと思いますけど、今回は大きい政策の中で、基本理念は生涯健やかで、いきいきと暮らせるまちの実現というものがございまして、大きい柱が4本ございます。</p> <p>どこから皆さん話されても、全部通ずるものがあるのではないかと思いますので、自由に質問、あるいは皆さんの日頃の考え、これはもっとこうすべきだというようなものがございましたら言っていただければと思います。</p>
委員	<p>御説明を受けて感じたことは、大きな柱の中で、いろいろ含まれてはいると思うんですけど、住み慣れた地域で暮らせるまちという部分で、住み慣れた地域で暮らしていくためには、食事はとっても重要だと思うんですね。その食事が、高齢者単独世帯が増えたり、低栄養の問題とか予防的なことを考えると、食事ってとっても大きな意味があると思うんですね。どこに施策として入っているのかなというのは少し思いました。</p> <p>それからやはり、地域住民の方の支え合いとかが含まれると思うんですけど、地域の方々の意識というか、看取りも増えてくると思うので、そういう中で心構えと言いますか、地域包括ケアシステムの中で1番植木鉢の底辺にあたる、本人と御家族の心構えの部分、地域住民の啓発だとか。</p> <p>それからもう一つ思うのが、共生社会を作らざるを得ないと思うんですけど、共生社会の中の兼ね合いみたいなところという部分がどこに入っていくのかなというのを感じたところです。</p> <p>あと、地域住民の啓発と子供さんたちの社会参加への啓発活動みたいなのところも意識改革の中では必要なんじゃないかなと感じました。</p>
福祉総務課長	<p>低栄養の食事の部分ですが、いまのところ全体を見渡すと施策の基本目標2番目のはつらつと暮らせるまちの中に施策の柱として、健康づくりと介護予防の強化推進、そしてその中の項目で生涯に渡る健康づくりの支援というところでは、栄養、食生活といったところにも着目した健康増進施策が入る予定になっております。</p> <p>また、御質問にあったところが、ここにしっかりと書き込めるかどうか、あるいは他のところに新たに加えるかどうか。御意見いただいたところはしっかりと私どもで受け止めさせていただいて、漏れがないようにさせていただきたいと感じております。</p>

	<p>それから、教育の部分も含めて意識ですが、基本目標3の施策の柱、地域で支え合う体制の構築、ともしび運動もございますので、より膨らませる形で、お話が盛り込めればと思います。あるいは、具体的にこのような記述ではなくても、それがにじみ出るような文書を作り上げられる可能性もあるのかと感じたところでございます。</p> <p>いずれにしても、確かに意識の部分も非常に大事なところだと感じておりますので、そこがしっかりと受け取れるように、読み取れるようにさせていただこうと思います。御意見ありがとうございます。</p>
委員長	<p>そのほか、栄養の関係で、特に高齢になると体がということで、健康課からありますか。</p>
健康課長	<p>健康課の部分は下支えといいますか、若いうちからの生活習慣病予防というところが重点です。低栄養になりますと介護予防的な対策はやっているという認識なんですけども、栄養に特化したというのは、生活を支えるということかと吉井委員の話を聞きながら思っていました。</p> <p>栄養素とかではなくて、食事が安心して食べられる仕組みがあるとか、栄養素ばかりの話ではないのかと感じました。ありがとうございます。</p>
委員長	<p>ありがとうございました。そのほか、皆さんの中で何かございますか。</p>
委員	<p>ローカル地域の現状ですけど、高齢者の最大の悩み、ニーズになると思うのですが、医療機関への移動手段が大きな課題です。ここでも、4の(1)の中に入れられるという説明がされたと思うんですが、公共交通機関の利用しやすい環境というのは、非常に難しい課題ではないかと思うんですよね。どんどん撤退、あるいは減少しているというのが現状だと思っています。</p> <p>それに代わるべき生活交通機関のようなものが、他の市町村も取られているようですし、そういう要望が出ているので、ここは一つ、昨年行われたニーズ調査の中でも交通機関がないため出にくいという地域が多いという指摘もあったようですので、地域生活交通を守ると言いますか、維持すると言いますか、そういう観点の表現をすべきではないかと思います。</p>
委員長	<p>ありがとうございます。御意見ということで承っておきます。そ</p>

委員

のほかございますか。

3ページなんですけど、高齢者等の概況、その中の人口構造と被保険者の状況というのがありますよね。この表から見て感じたことを少し考えてみたいと思うんですけど、特にこの平成37年度、これは2025年なんですけど、長岡市の総人口は、平成29年に比べると15,700人ぐらい減ります。

一方で、高齢者の人口は、前期高齢者が5,300人減少して、その分後期高齢者は5,800人増加して、差引きで高齢者人口だけ見ると、500人増加すると推定されていますよね。

これはなぜかと考えてみると、これは先ほど言われたように、団塊の世代が75歳以上に達して後期高齢者になったということだと思います。

そして、この37年以降が表にはないのですが、平成37年から平成42年までの5年間で団塊の世代を中心とする後期高齢者の増加によって、介護保険需要のピークを迎えるんだと思います。

しかし、平成42年は高齢者全体の人口が初めて1,400人程度減少に転じていく年でもあって、以後ずっと減少していくんですね。この42年というのは、この表に出ていなくて申し訳ないんですけども、国立社会保障人口問題研究所の地域別将来推定人口に基づいて、私自身が勝手に補足してみました。

ここで言いたいことが2つございまして、今日から概ね十数年後ぐらいから長岡市の総人口はもちろんのこと、高齢者人口も減少に転じますので、以後介護需要というのは、相当減るという感じがします。

もちろん、団塊の世代というのがそこに固まっておりますので、その人達が年を取ってくれば需要はあるんでしょうけど、しかしながら全体として減ってくるのかと思います。

例えばこれを僭越ながら介護事業者という立場で物を考えると、これからの新規の大きい設備投資は、10年後には減ってしまうということなので、投資資金の回収という点からもあまり期待できないでしょうし、しかも投資は抑制的にならざるを得ないんじゃないかと思うんですね。

そこで、一つ私から提案ですが、こういう状況を踏まえたうえで、空き家の有効利活用は少し考えられないだろうか。

長岡市では2013年、これは平成25年ですけども、現在で総住宅数の12.6%、戸数で言うと2,150戸ですね、空き家だと言われております。この空き家を高齢者が安心できる住まいづくりに活用できないかということなんですけど、例えば一例を申し上げますと、グループリビングという方式があります。この高齢者向け

	<p>の賃貸住宅を地域ごとに提供することによって、多様な生活支援システムが出来るのではないだろうかと考えています。</p> <p>運営主体としては、市に頼るだけではなくて、NPO法人や社会福祉法人、町内会とか、ボランティア関係者と連携を取りながら運営していくというのが望ましいのかなと考えますし、介護事業者が空き家を利用しながら、地域密着型の事業所にそれを転用することもできないか検討の余地があるのではと思っております。</p> <p>これだと初期投資は低く抑えられて、資金の回収期間を短くすることで、相当お金が節約できると考えられるんですね。</p> <p>最後にですね、また違った行政の立場で物を見た時に、介護保険料の引き上げや介護報酬の引き下げが既に始まっておりますよね。将来的には、高齢者の人口減少に伴いまして、介護サービスも量よりは質の高いサービスが求められるんじゃないかと私は思っております。</p> <p>従って、必然的には、介護事業者の差別化や統廃合も、将来的にはだんだん促進されていくんじゃないかと。今後、必要性の高いサービスに絞った抑制的な整備計画というものが行政に求められると同時に看護多機能型のような行政策に適合する事業所の整備ですね、この整備には大胆な優遇措置とか補助金の増額等の措置が必要ではないだろうかとは考えております。</p>
<p>委員長</p>	<p>非常に大きい新しい発想のもとに、先ほど看取りというのも少し出てきているし、もう1つは高齢者の単身世帯の関係等々も出たりしているなかで、それ全体を生活という視点から見ると、さっきの交通の関係もありますし、これをいましてさうしましようというのではないんですけど。</p>
	<p>委員</p>
	<p>問題は建物自体ではないです。誰が面倒を見るかです。実際、私どものグループには、築30年の大きい建物で何かやらないかという話がよく来るのですが、そうするとまずメンテナンス、そこに住む人の面倒を誰がみるかということと全部計算するわけです。</p> <p>そうすると、30年経ったのを直してやっても、またすぐ面倒を見る人を集められるかどうかというのが入ってきて、その時の建物よりもそれを運営していくことがどうやったら出来るかということと考えると、いつもシミュレーションをやっても赤字でもよければやりますと言うのですが、そうするとやっぱり赤字になると、という話がよく出ます。</p> <p>さっき言われたように人口が減りますから、山のように空き住宅が出てきますけど、お年寄りをそこに住まわせて、誰が面倒みるかというのを考えないと。空き住宅の問題じゃなくて、誰がケアする</p>

	<p>かです。</p> <p>建物の場合は必ず面倒をみる人を置かなければならないんですね。そうすると、建物よりもむしろケアする人のコストの比重が大きいがために結構難しいです。</p> <p>建物よりも、どうやって介護する人を確保していくかという。介護する人も人口減少の中で、いまのように若い人がお年寄りを介護するというのが成り立たないわけですから、どこかに書いてありましたけど、元気なお年寄りが元気じゃないお年寄りを介護するような形になっていかないと、介護する人がいなくなるという問題が絡みますので、建物はおそらくそんなに面倒ではないと思います。</p> <p>もうしばらくすると、何割という建物が空き家になりますけども、その空き家をどうやって使うかということが、さらに行政がなかなかいい考え方が出来ていないというのが現状じゃないかなと思います。</p> <p>面倒をみる人をどうやって確保するかというのが、より大きな問題になるんじゃないのかなというのが、日ごろそういう計算させられてる立場からみると、それが一番大きな課題だと思います。</p>
委員長	<p>人材が課題ということですね。</p>
委員	<p>いま話し合ったとおりで、これから介護サービスの整備をしていく状況の中では、いまお話いただいた内容で、介護人材を確保していく部分とサービス業のバランスを考えながら整備していかないと事業として成り立たないという部分がやはりありますので、人口減と人材確保、そして適切なサービス量、この良いところを常に考えながら、今後計画を立てていくということが望むところであります。</p>
委員長	<p>先ほど少しあったように、将来介護人口が減っていくときにも、現実的に課題があるわけで、この課題をどうクリアしていったらいいのか、クリア出来るのか、出来ないのかということも含めながらあるかどうかと思いますけど。</p> <p>今回地域福祉というか地域でのいろんな活動もずいぶん出ておりますけど、何か御意見ございますか。</p>
委員	<p>この大きい冊子にボランティアのこともいろいろ書いてありましたけど、結局中身の問題で、例えば認知症サポーターも集まって、リングをもらってそうなんだよと、それはそれでまた大事なんですよけども、ただ数だけの追及ではないのかと思いますし、今お話ありましたけども、10年後の見通しも非常に大変なんですけども、</p>

	<p>実際、これから第7期の3年間の大事な、どうすれば具体的に考えていかなければいけないかということをお互いに話し合えたらと思います。</p>
<p>委員長</p>	<p>ありがとうございます。ほかにこの1番に関してございますか。</p>
<p>委員</p>	<p>基本的な質問になるかもしれませんが、地域包括支援センターの機能というか役割についてなんですけど、先ほど日常生活圏域の設定は、地域包括支援センターの地区割りごとというお話がありまして、27 ページで施策の体系図のお話もあったんですけど、27 ページの基本目標が4つあって、大きく分けると1番が、いわゆる介護というところで線を引くとそうなった方と、2, 3, 4番はそれを防ぐための予防みたいな、そんなイメージだと思います。</p> <p>そもそも地域包括支援センターというのは、私のイメージだとそういう介護状態になったあとでお世話になる場所なのかなという印象があって、それ以前の健康づくりとか社会参加の促進とか、そういったことまでも地域包括支援センターが統括されているのかどうかというのを聞きしたかったのですが。</p>
<p>長寿はつらつ課長</p>	<p>委員がおっしゃったとおり、主には高齢者の総合相談窓口ということで、広く周知をさせていただいております。</p> <p>いろいろお困りごと、少し生活が1人でしづらくなったりとかですね、心配な高齢者がいる場合には、御本人というよりも、主に家族の方、民生委員の方、周りの方が相談に来るケースが多いのですが、そのようなことと、それからいろいろな高齢者の虐待等の権利擁護事務の関係、それからその他では、いろいろな関係機関との連携を取り合う、その要になるような仕組みをやっております。</p> <p>介護予防の視点ももちろん相談を承りますので、必要な介護サービスの情報を相談者に提供するというのも業務としてやっております。</p> <p>委員のおっしゃるとおり、健康づくりをメインとしたところではないのは、委員のおっしゃるとおりだと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>ありがとうございます。そういう活動は町内会だとか、あるいはコミセン単位とかになってるような気はしてるんですけど、そういったところを束ねるといって、統括するような組織があると、こういうのが進むのではないかと感じたので、お話させていただきました。</p>
<p>福祉保健部長</p>	<p>地域包括支援センターの役割については、長寿はつらつ課長が申</p>

	<p>       上げたようにあらゆる総合窓口で、地域包括自体が、例えば栄養だとか介護予防だとかの事業をやっているわけではないのですが、それぞれ専門の事業者さんとか関係機関があるわけなので、そこに繋いで、連携して見守りをしていくということで、必ずしも介護が必要になった状態の方だけじゃなくて、そのちょっと前ぐらいの方から、心配があれば常に対応させていただくというのがまず一つあります。     </p> <p>       また、包括の圏域というのは、この場でも話したことがあったかもしれませんが、これからの長岡市の健康とか福祉というテーマを考えるうえで、非常に重要な圏域単位になってくると思っています。     </p> <p>       今回は高齢の計画なので、高齢者の今後の対応をどうしていくかということを含めて包括の圏域単位でとらえていくということですが、もう一つ、障害福祉の計画も今年度に別の委員会でやってますけれど、そちらも新たに今までなかった地区単位、担当割とか、地区割りというのを導入することにしております。     </p> <p>       それはこの包括の単位と基本的に重ねていく、それを例えば包括2つを1つという考えは多少ありますが、長岡市全体広いので、基本的にこの包括の単位を地域と考えた時に、あらゆることをこの単位で考える。     </p> <p>       行政としても、保健師の再配置もいま検討しております。これもまだ形になってるわけでもないし、確定してはいるわけではないので、予定ということでお聞きしていただきのですが、支所地域は保健師がそれぞれ支所に配置されていますので、地区担当のような考え方で業務をやっていますが、長岡地域については、地区担当という考え方がこれまでなかったもので、健康課に配置されている保健師を包括の単位でとらえて、ある程度地区担当という顔が見える関係を行政としても作っていきたい。     </p> <p>       そういうことで、あらゆる生活の基盤を考える際の単位として重要になる単位かと思っています。     </p>
<p>委員長</p>	<p>       まだまだ話はずきませんが、皆さんの思いと、課題的な部分がありますので、行政としても受け止めながら進めていけたらと思っていますので、よろしくお願いします。     </p>
<p>委員</p>	<p>       介護サービスを7期計画で整備していく時に、やはりどうしても地域医療編成のところの兼ね合いがあるのではと思います。     </p> <p>       それによって、今後介護保険計画の中に新しくできる介護医療院なんかをどのような形で盛り込んでいくのか、という影響があると思うので、その地域医療編成の兼ね合いみたいなところも大事だと     </p>

<p>委員</p>	<p>思います。</p> <p>実は概念だけが出ていて、具体的な動きになると足踏みしている。一番根本的などというレベルの人をどこが見るかというところで、一般病院は何週間かで退院させられますよね。退院する人たちの医療の手間がかかると施設は受け取らない。人手とかコストの問題で。そういう人が行けるところがあまりない。</p> <p>老健に行っていたけど、老健はそんなに見れないということで、介護医療院を整備する話になったが、介護医療院も今ある病院の中の介護病棟のようなものに近いのか、老健に近いのか、どちらに近いのか、というところでやるかやらないかの話で割れるのです。</p> <p>みんな様子見で、国はとりあえず今までで十何年失敗しています。介護の必要な患者を病院から退院させて、老健に動かそうと思ったけれど、5年経っても10年経ってもだめで、今回も伸びる。それで介護医療院を整備するという事になったんです。</p> <p>それは概念として出てきたもので、どこがそこをやってどれぐらいのレベルを受けるかというのは、いま綱引きというか、最中であって、わかる人はいないんです。</p> <p>作った厚生労働省もとりあえず病院から老健にというのを失敗して、そういうのを概念として出したので、具体的なものになると手探りの状態です。</p> <p>長岡市内の病院や施設もどうなるのかというのをみんな考えていても、言える人はいないんです。本当の姿は知恵だけは出てくるんですけど、そのとおりになるかわからないので、病院自体もいろいろ悩んでいるし、施設もおそらくどれぐらいのところまで受け入れるかというところで悩むので、悩んだ間に介護医療院というのを整備するのですが、それがまだ出来ていないわけなんです。</p> <p>具体的なものは、図はあっても具体性はまだないんです。あと5年ぐらい掛けてやろうとはしてるんですけど。</p>
<p>委員長</p>	<p>そういう動きがあるということも、皆さん方も知っていただきたいと同時に、もう一つはいまお話を聞いていて、各包括の中で地域の医療機関と介護事業所の集まりと言えばおかしいんですけど、包括のところで横の繋がりを作って動いておられますので、そんな中でまた一つ、第一次の医療なのかもしれないし、第二次の医療なのかもしれませんが、包括的に進んでいくといいなと思っています。ありがとうございました。</p> <p>では2番目の方に移っていきたいと思います。第7期計画の策定作業の進捗について事務局からお願いします。私の手元ですと説明は5分ということになっておりますので、一つよろしくお願いま</p>

<p>福祉総務課長</p>	<p>す。</p> <p>(資料No. 2 の説明)</p>
<p>委員長</p>	<p>1 1 月下旬にある程度具体的に見ることができるのではなからうかと思えます。</p> <p>それからもう一つとしては、介護保険料等は、これからの動向などを見ないと出来ないということがございますので、また皆様に11月以降になるのではなからうかと思えますけど、示していきたいということです。</p> <p>それでは2番目のところは、次回の11月下旬になるのか12月上旬になるのか、そちらの方でしていきたいと思えます。</p> <p>それでは、次の地域福祉計画について、事務局の方からお願いします。</p>
<p>福祉総務課長</p>	<p>(資料No. 3 の説明)</p>
<p>委員長</p>	<p>この秋に厚労省からガイドラインが出るということでございますけど、特に皆様から何かございますでしょうか。</p> <p>いまお聞きしていて、先ほど長岡の場合は、さっきの説明にもあったように、平成6年ぐらいからともしび運動というものをハードとソフトということで、ずっと市独自で進めてきておりますし、その中に地域コミュニティ構想で地域福祉をされておりますので、それはそれとして、そういうようなものも加味しながらずっと進んでいると、長岡の場合はですね。</p> <p>例えば、地域の福祉の活動等でもまだまだ進めないといけない課題もたくさんあるわけで、それらも含めながらいいものを作っていけたらと思っております。</p>
<p>委員</p>	<p>やっぱりなかなか難しいなということを感じます。</p> <p>地域の助け合いと言っても、結局助ける、助けられる、平等と言いつつも結局それが続いてしまうと上手くないので、そういう意味で地域のコミュニティセンターですね。</p> <p>ボランティア銀行は当初凄くいいと思って、お金がいろいろ変わってきましたけれど、新潟はまごころヘルプをやっているらしいのでしょうけど、かつてのような形になってこない。</p> <p>長岡の場合のボランティア銀行は、これからもっともっと広がる可能性が私はあると思えます。しかも、いわゆる協力員と利用者という関係、それがまた反対になることもできる。</p> <p>そういう意味でボランティアの育成と中身ですよ。そういうの</p>

<p>委員長</p>	<p>をしっかり社協にお願いしたいし、私達も地域の一員として、みんな地域の中で助け合えることができたらいいねという話はしています。</p> <p>ありがとうございます。そのほか皆さん、地域福祉でありますでしょうか。</p> <p>それでは3番目の地域福祉計画ということで、またこれから出来たところでお話を承っていきたいと思います。</p> <p>話がずっと進んできました、ちょうど時間も押してきましたけれど、そのほか皆さんからございますでしょうか。</p> <p>この議題については、これで終わりたいと思います。</p> <p>事務局の方から、特に何かございますか。</p> <p>では、今日の私の進行はここまでということで、いろいろありがとうございました。私も地域福祉のところで、交通のことが載っているかなと思って、さっと見たら載っていました。それをいかにどのようにこれから膨らましていくのかということも出てくるのかと思っていました。ありがとうございました。</p> <p>では、これでマイクを事務局にお返しします。</p>
<p>福祉総務課 課長補佐</p>	<p>活発な御審議をいただきまして、誠にありがとうございました。</p> <p>それでは、閉会にあたりまして、福祉保健部長よりごあいさつを申し上げます。</p>
<p>福祉保健部長</p>	<p>長時間に渡り御意見をいただきありがとうございました。</p> <p>本当に現実的な、いまここで起こっている課題から、将来的な展望まで、幅広い御意見をいただきまして、とても参考になりました。</p> <p>また、今日この場でなかなか御意見をいただけなかった委員もおられるかもしれませんので、この会議は会議として、この会議以外でも、さまざまところで私どもにお話をいただいて、意見交換が出来る場を設けていきたいと考えております。</p> <p>皆さんのお知恵をいただいて、良い計画を作りたいと思っております。本日はありがとうございました。</p>
<p>福祉総務課 課長補佐</p>	<p>次回の推進会議でございますが、先ほどの説明にもございましたけれども、11月下旬ごろを予定しております。</p> <p>日程が決まり次第、みなさまにご案内を差し上げたいと思いますので、御出席をよろしく申し上げます。</p> <p>また、本日の会議の議事録につきましては、後程みなさまの方にお送りいたしますとともに、長岡市のホームページにお名前を伏せた形で掲載させていただきたいと思っておりますので、御承知おきくださ</p>

	<p>い。</p> <p>最後に本日お車でお越しの方で、まだ駐車券の無料処理をされていない方がいらっしゃいましたら、お帰りの際、お声掛けください。</p> <p>それでは、本日はこれで閉会いたします。みなさま大変ありがとうございました。</p>
8 会議資料	別添のとおり